

天水中学校区新しい学校づくり委員会協議の内容（令和元年度～令和3年度）

天水中学校区新しい学校づくり委員会は、天水中学校区の玉水、小天、小天東の3つの地区の地域・保護者・学校の代表の委員で構成されます。令和元年12月2日に第1回委員会を開催し、将来人口推計に基づく児童数・生徒数、これからの学校教育について等の説明を受け、協議を開始しました。第2回委員会以降は、天水町の子供たちの現状と課題、学力向上のための方策、学校環境の改善、統合しない場合と統合した場合の学級・学校規模のメリット・デメリット、小中一貫教育、学校舎の位置などについて、全体会やグループで協議を行いました。

また、第1回から第6回の委員会では、熊本大学 古賀倫嗣名誉教授にアドバイザーとして委員会に出席いただき、これから学校教育が大きく変わる時に何が子供たちに必要になってくるのか、そして小中一貫教育等についてのお話やアドバイスをいただきました。

第8回委員会からは、熊本大学教職大学院 太田恭司教授に出席いただき、天水中学校区が目指す小中一貫教育についての講話やグループ協議等にご協力いただきました。

第1回委員会
【日時】令和元年12月2日（月）19時～20時30分【場所】天水市民センター多目的ホール 【出席者】委員16名、欠席者2名 【アドバイザー】熊本大学 古賀倫嗣名誉教授
【内容】 ・委嘱状交付・委員長（議長）及び副委員長選任・これまでの経緯について ・協議事項：(1)学校統合について 事務局から「これまでの経緯」、「玉名市の人口、児童・生徒数、これからの学校教育について」の説明、また、熊本大学 古賀倫嗣名誉教授から教育と学校規模、小中一貫教育についてお話がありました。 委員からは、「子供・地域・防災等しっかり議論する必要がある」、「ある程度切磋琢磨して育つ環境が必要ではないか」、「自分たちの子供、孫の世代まで見通して検討していく必要があるのではないか」といったご意見や、小中一貫教育についての質問がありました。
第2回委員会
【日時】令和2年2月4日（火）19時～21時10分【場所】天水市民センター多目的ホール 【出席者】委員18名、欠席者なし【アドバイザー】熊本大学 古賀倫嗣名誉教授
天水町の教育のあり方について、3つのグループに分かれて協議し、その後、全体協議を行いました。 (1) どういう子供に育ててほしいか ① 天水の子供たちや学校の良いところは？ 「あいさつがよくできる」、「やさしい、素直」、「よく努力する」、「決まりを守る」、「仲が良い」、「地域がいい（地域が協力的など）」といった意見が多く出されました。 ② 天水の子供たちや学校のもっとここが良くなったらいいなと考えるところは？ 「自主性・積極性を育てたい」、「強い心を育みたい」、「競争力を高めたい」といった意見が多く出されました。 (2) 学校のあり方について ① 子供たちの将来のために、より良い学びの環境をつくるためには何が必要だと思いますか？ 「多様性・集団づくり」、「コミュニケーション力」、「思いやり・人間力」、「未来の情報教育」、「グローバル社会（英語での会話ができる環境づくりなど）」、「ふれあう地域（地域とふれあい学べる機会など）」、「安心安全」といった意見が出ました。 全体協議では、先に統合した玉陵小の様子や複式学級の現状等について質問がありました。

第3回委員会

【日時】令和2年10月29日（木）19時～21時10分【場所】天水市民センター多目的ホール

【出席者】委員17名、欠席者なし【アドバイザー】熊本大学 古賀倫嗣名誉教授

【内容】

・委嘱状交付 ・委員長（議長）及び副委員長選任 ・これまでの経緯等

・協議事項：

- (1) 学校の学力向上のための方策について
- (2) 学校環境の改善について（施設の充実、学校規模など）

事務局から、「経緯と現状、これからの学校教育について」、「令和元年度の協議内容」、また、小天小学校から、令和2年4月に小天小学校と統合した旧小天東小学校の児童の様子が紹介されました。令和元年度の協議を踏まえ、学力向上のための方策や学校環境の改善についてグループで協議した後、全体での協議を行いました。

(1) 学校の学力向上のための方策について

「良いところを伸ばす」、「多様な考えに触れる」、「競争力を高める」、「やる気を高める」、「ICTの活用」

「家庭学習を充実」、「基本的な生活習慣を身につける」、「先生のやる気をサポート」「小中一貫教育の充実」といった意見が出ました。

(2) 学校環境の改善について（施設の充実、学校規模など）

「ICT整備」、「適正な学級・学校規模」、「施設の充実」、「地域との連携」、「安心・安全の確保」といった意見が出ました。

全体協議では、次のような意見が出ました。

- ・他の市町村の事例に関する資料も必要ではないか。
- ・一番大事なのは、子供たちとその保護者だと思うので、未就学児も含めた保護者へのアンケートをして意向を確認した方がいいのではないか。
- ・平成27年からこの統合の話が続いているので、期限を切って答えを出していくべきではないか。

第4回委員会

【日時】令和2年12月2日（水）19時～21時【場所】天水市民センター多目的ホール

【出席者】委員16名、欠席者1名【アドバイザー】熊本大学 古賀倫嗣名誉教授

【内容】

・協議事項：(1)学級・学校規模について

事務局から、「玉名市学校規模・配置適正化基本計画と小中一貫教育」、「玉陵学園の取り組み」、事例紹介として平成25年から県内初の施設一体型の小中一貫教育実践校である宇城市立豊野小・中学校、施設分離型の京都市立東山泉小中学校の取り組み、「学級・学校規模から見たメリットとデメリット」の説明がありました。また、前玉陵小学校校長先生より玉陵小学校開校からの児童の様子が紹介されました。

学級・学校規模についてグループで協議した後、全体での協議を行いました。

(1)学級・学校規模について

天水の子供たちの現状と課題を踏まえつつ、統合をしない現状のまま、仮に統合をした場合の、子供たちから見た学級と学校規模についてのメリットとデメリットについて、令和8年度の推計値に基づき、協議をしました。

□ 統合しない場合（令和8年度推定：学校規模101人、学級規模16人、全学年1学級）

- ・メリット：地域との連携、子供への関わりが増え、個に応じた指導が充実、先生の目が届く、他。

- ・デメリット：PTA と先生の負担増、集団活動が難しい、競争が少なく意欲が少ない、人間関係が固定化、多様性に乏しく、視野が狭くなりがち、他。

□ 統合した場合（令和 8 年度推定：学校規模 202 人、学級規模 33 人、5 年生のみ 2 学級、他は 1 学級）

- ・メリット：PTA・先生の運営体制強化、多様な考えに触れることができる、切磋琢磨できる、集団スポーツができる、コミュニケーション力が高まる、他。
- ・デメリット：個別指導が難しい、大人数の中で埋もれてしまう恐れ、他。

全体協議では、次のような意見が出ました。

- ・統合しない場合のメリット・デメリットが統合する場合のメリット・デメリットの裏返しだ。
- ・玉水も小天も人数が減ってきたときに、本当に天水だけで統合ができるのか。
- ・保護者に資料を提示してアンケートを実施して、それをベースに協議した方がいいのではないか。
- ・地域密着も大事だが、子供にはいろんな人と出会って刺激を受けて幅広い視点を持ってもらいたい。

第 5 回委員会

【日時】 令和 3 年 1 月 26 日（火） 18 時 30 分～20 時 30 分【場所】 天水市民センター多目的ホール

【出席者】 委員 17 名、欠席者なし 【アドバイザー】 熊本大学 古賀倫嗣名誉教授

【協議事項等】

(1) 統合についての基本的な考え方

【内容】

(1) 統合についての基本的な考え方

これまでの協議を踏まえ、統合についての基本的な考え方について協議を行いました。委員からは、「複式学級になってから統合を考えるべき。」、「子供が今後減少していく傾向を考えると、天水だけではなくもっと広範囲な統合になり、もしかすると天水から学校がなくなるのではないかという不安がある。」、「アンケートを実施したら保護者の意見も分かってくるのではないか。」といった意見が出されました。

協議の結果、天水中学校区の玉水小学校と小天小学校は、「学校規模を考えた場合は統合が望ましい」という基本的な方向性を踏まえて協議を継続することとなりました。その中で、学校の位置についての議論には至らず、委員会としての最終的な方向性については定まっていません。

第 6 回委員会

【日時】 令和 3 年 3 月 19 日（金） 19 時～20 時【場所】 天水市民センター多目的ホール

【出席者】 委員 15 名、欠席者 2 名【アドバイザー】 熊本大学 古賀倫嗣名誉教授

【協議事項等】

(1) これまでの協議のまとめ

(2) 今後の方向性について

【内容】

(1) これまでの協議のまとめ

第 1 回～第 5 回の委員会の協議内容について確認しました。

(2) 今後の方向性について

平成 24 年に策定した「玉名市学校規模・配置適正化基本計画」（第 1 次計画期間：令和 3 年度まで）の第 2 次再編計画の見通しがはっきりしていない状況であるため、審議の状況を見ながら天水地区の協議を進めたいという事務局からの提案を確認した。

第7回委員会
<p>【日時】令和3年10月8日（金）19時～20時30分【場所】天水市民センター多目的ホール</p> <p>【出席者】委員17名、欠席者なし</p>
<p>【協議事項等】</p> <p>・委嘱状交付 ・委員長（議長）及び副委員長選任 ・これまでの経緯等 ・玉名市学校規模適正化審議会の報告</p> <p>事務局から「これまでの経緯」、「玉名市の人口と児童数」、「これからの学校教育」、「これまでの協議内容」の説明、また、玉水小学校校長先生から「タブレットを活用した学習について」、小天小学校校長先生から「外国語学習の取組」について、実際の子供たちの様子などのお話を伺いました。</p>
第8回委員会
<p>【日時】令和3年12月20日（月）19時～21時【場所】天水市民センター多目的ホール</p> <p>【出席者】委員14名、欠席者3名 【講師】熊本大学教職大学院 太田恭司シニア教授</p>
<p>【内容】</p> <p>・玉名市学校規模・配置適正化基本計画 ・玉名市の小中一貫教育</p> <p>(1)天水中学校区が目指す小中一貫教育～地域の宝と子どもたちの未来を守り育てる教育の実現を通して～</p> <p>講師：熊本大学教職大学院 太田恭司シニア教授</p>
<p>玉名市の学校再編の考え方の基本となる「玉名市学校規模・配置適正化基本計画」では、学校規模の適正化を図ると共に小中一貫教育も進めていくとされており、協議を進める上で小中一貫教育に対する理解を深めることは重要になります。そのため、熊本大学教職大学院 太田恭司シニア教授に小中一貫教育についての講話を行っていただき、グループ協議を行いました。</p>
<p>小中一貫教育のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生から中学校3年生まで、先輩後輩いろいろいて楽しそう。 ・どういうふうが良い面があるのかが、いまいちピンとこない。
<p>小中一貫教育に対する疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の仕事の量が増えて、子供と向き合う時間が減るのではないか。 ・中学校の先生は小学校にも授業に行くのか。
<p>小中一貫教育に対する不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をもって一貫教育か。 ・節目節目で成長の喜びが感じられなくなるのではないか。
<p>小中一貫教育に期待する効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強する内容が途切れることなく達成できるように思う。 ・いろいろな年代の子供たちがいて協調性がうまれそう。

第9回委員会

【日時】令和4年3月15日（火）19時～21時【場所】天水市民センター多目的ホール

【出席者】委員17名 【講師】熊本大学教職大学院 太田恭司シニア教授

【内容】

(1)行政説明（学校施設等の説明、玉名市学校規模適正化審議会建議について）

(2)天水中校区の未来像～小中一貫教育の創造～

講師：熊本大学教職大学院 太田恭司シニア教授

(3)これまでの協議のまとめ

(2)天水中校区の未来像では、統合しない現状のまま、仮に統合した場合の学校舎の位置について、メリット、デメリットをグループで協議しました。そして、子供たちにとっての最善策は何なのかを、グループごとに協議しました。

現状のまま

【メリット】 現状が維持できる、少人数の安心、通学・距離が近い、他

【デメリット】 児童数減少による弊害、老朽化、他

中学校に併設

【メリット】 小中一貫教育の効果が大きい、新しい施設が期待できる、利便性が高い、多様な考えに触れて切磋琢磨できる、他

【デメリット】 防災上の問題、防犯上の問題、教職員の負担増、他

玉水小を活用

【メリット】 防災上安心、他

【デメリット】 道が狭い、老朽化、他

小天小を活用

【メリット】 幹線道路に隣接して避難路が確保できる、中学校との交流がしやすい、他

【デメリット】 通学路の課題、他

(3)これまでの協議のまとめでは、「協議のまとめ（案）」に対し、委員全員が、まとめ案への意見や統合に対する考え方を発表し、委員会において「協議のまとめ（案）」が承認されました。

協議のまとめ（抜粋）

（後略）

人口と年少人口の今後一層の減少が進むと予想される中、高度な情報化・グローバル化の急速な進展やAIの発達などにより、子供たちは、今の私達には想像もつかないような世界を生きていくことになると考えられます。子供たちの10年後、20年後、30年後、今の小学6年生は、10年後は22歳、20年後は32歳、30年後は42歳になります。その時に、自分たちで人生を生き抜く力をつけるための教育環境を、私達大人は整えていく必要があります。

協議を通して常に一貫していたのは、天水町の子供たちはやさしく素直でとても素晴らしい、そういった委員の共通の思いでした。その中で、これからの教育と子供たちの未来を考えた時、子供たちがたくましく生き抜く力を身につけるためには、多様な考えに触れて切磋琢磨できる環境を整える必要があると考えます。

教育委員会においては、この天水中校区新しい学校づくり委員会で協議してきた内容を基に、天水中校区の学校再編について、「子供のための教育環境整備」の観点を第一に考え、しっかりと議論し検討していただきますよう望みます。

